浜松南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

校訓　最善を尽くそう

今出発の時　希望を胸に

卒業を通過点とし人生の第二歩目を!!

新しい年を迎えてはや二カ月がたちました。もうそろそろ春がやってきます。今年もまた卒業の季節がやってまいりました。三年間という短い高校生活を終え、希望を胸に新たな世界に飛び込もうとしている三年生の皆様は、その出発への期待と不安で満ちている事でしょう。人生なにが待ちうけているかわかりません。しかしそれにめげず頑張ってもらいたいものです。

在校生から

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

長い人生にとって三年間は、ほんの短い時間であるが、この高校三年間は人生にとってとても貴重な時間であると思います。その三年間を過ごしたこの南高は数多くの思い出を残してくれたことと思います。

暑の厳しい夏の日、希望で胸を弾ませ校門をくぐったこと、暑い夏の日プールで水泡をあげてさわいだこと、また真冬の部活に打ち込んだ人もいたことでしょう。秋の日、極限に挑むかのようにスポーツに打ちこんだこと、冬の日強い北風に立ちむかったこと、人それぞれに多くの思い出があることと思います。その思い出の一つ一つに心の変化があったことを思い出して下さい。時には苦しみ、自分の行動に疑問を抱き、真剣に悩んだりしたこともあったことでしょう。しかし、苦しめば苦しんだだけ前進し、成長したのではないでしょうか。また、悔しくやしかったこともあったでしょう。でも、先輩はそれをバネにする力を十分持っています。その力は、先輩達が今まで努力してきたことにより培われたものです。

三年生の皆さん、本当の人生はこれからです。この南高生活を無駄にしないよう頑張って下さい。

▲我が母校　浜松南高校

卒業生から

"時"というものは、長いようで短かいものです。高校生活の三年間、特に三年生になってからの一年間は過去をふりかえるのが何と早く感じられたことでしょう。

高校生活が人生で一番輝く時かもしれません。学校という、ひとつの枠の中で、厳しい社会から保護された時代です。自由に羽ばたいた時代、高校というひとつの過程を経て、私たちは卒業し、自分で選択した道を、それぞれ歩みはじめます。

今思いなおしてみると、いろいろな思い出が頭の中に蘇ります。学問の習得、学校行事、そして恩師、友人関係。学校行事、そして恩師の言葉をそれぞれ吸収しつくしてそして、社会という未知の世界に一人で飛び込んで行かねばなりません。そこには、どんな困難が待ちかまえているかわからないけれども、高校生活で学んだことをひとつひとつ役立て、克服していきたいと思います。

一、二年生のみなさんは、これからが"思い出作り"の本番でもあり、一番輝ける時でもあります。遊びや運動だけでなく、勉強にも力を入れて、悔いが残らないようにがんばって下さい。そして、何事にも挑戦し、積極的に活動して下さい。今後の一年間を但っていくのは、あなたたちのですから――。

"時のたつのが早く感じられるのは、生活が一日一日充実しているからである"といいます。南高での三年間が充実したものであったのは、諸先生、在校生のみなさんのおかげです。ありがとうございました。

卒業を心から祝して　～三年生担任から～

▲先生ありがとうございました

31HR　井田辰司先生

謹賀の卒業を、心から祝す。周囲の騒音を排し静かに熟慮すると、あの入学式の日の校門に校章を光らせ胸を張り目を輝かせた頼もしい姿が目に浮ぶ。その後、いかなる経過を経て現在に至ったかは各員が熟考し結論を出せよう。責任を他人に転化しない強さの答を新たな出発点とすることを願っている。

32HR　山本昇平先生

卒業おめでとう

寒い、侍様、射撃の時代を生きだした機械、科学万能の今、温厚かつ田舎育ちの我々生徒にとって、ファッションのためなら寒中を問わずするはずである。こうして考えるとマフラーは必ず先生も熱意を持って話し合ってくれるのではないだろうか。そうなら信じている。そのためにみんなが真剣さと熱意を持って話し合ってくれるのであり、それ自体が素晴らしいことだと思う。

33HR　高橋俊至先生

人間は日々選択と決断であると言う。選択と決断とは「あれもこれも」ではなく「あれかこれか」である。選択に悩むのも自分自身結果を享受するのも自分自身。機会を見て決断することが大切。卒業生諸君の御多幸をお祈りします。

34HR　菅沼義也先生

一期一日は何とかなると思う馬鹿

35HR　飯田国裕先生

新たな出発をする皆さん、これからの人生においていろいろなチャンスに恵まれることと思いますが、それを生かすかどうかは、その人の心構えであり、決断力であると思います。ぬくまれたチャンスを生かし充実した人生を送って戴きたいと思います。

36HR　能勢　愿先生

お祝いのことばになって、今、社会人となって無事なるや、君達が、今日この日より人生八十、九十、百の生涯を養って活動し、考え、打ち込み続けられる何か一つの事（趣味等）を持って進むことを願ってやみません。

「鍛錬、阿鼻叫喚の切り、夢の中にまで、何かを追い求めつづけるそんな人になりたい。」

37HR　水越一夫先生

御卒業おめでとうございます。卒業生の殆んどの人が最後を過ごして後したので、ひとりひとりの顔が思い浮かび、様々な感慨が心を横切ります。最後に一言、「社会化」という言葉を胸中に開しまして、しかし、これから、一方で社会化されない自分、そこからはみ出した自分も、しっかりとつかんでください。そして、生涯の自分を、大切にして下さい。

38HR　高塚和夫先生

卒業とは、本来新しい人生に導いてくれるということである。と思います。君達は今、コップで世界一周をする時のような不安と希望に胸をやぐらまさせて準備を整えているときと出航をまつばかりだと思います。君達が十八年間、様々なあげてきた知識と忍耐力を持って力強く出発して下さい。

その輝かしい未来に幸運あれと祈ります。

39HR　横井道康先生

あなたたちの一番貴本は、若い時代に恵まれる知識と感ぜられる「鍛錬体験」だと思います。それらをあのように生かして実りある豊かな人生を築くかは、あなたがたひとりひとりの問題に対する心構えと努力だと思います。

実社会・高校生活の延長線上にあるのではなく、人生ひとりたちの時である。「鍛錬」をモットーに選択り開いて下さい。

熱演！教科別歌合戦

去る一月十九日、本校体育館において毎年恒例の行事となった。予餞会が催された。この予餞会の持つ意味は、第一、二年生送り出すというところにある。例年までは、二月中旬に行われたために三年生が、家庭学習に入ってしまい、出席率が悪かった。しかし今回は、一ケ月早い二月中旬に行われたため、ほとんど全員が出席したようだ。したがって本当の意味の予餞会を行うことができた。

プログラムは、昨年とあまり大差はみられず、等級発表の発表、バンド演奏、音楽研究部の発表、バンド演奏、のど自慢、そして最後に先生方による教科別対抗歌合戦が行われた。以上発表内容を紹介していく。

まず、いつも会場全体、校歌の演奏をしてくれている、管弦楽部の『里見八犬伝』次に『勲章チミダ姫』最後に『北ウイング』を演奏してくれた。一曲めの『里見八犬伝』は、今や人気女優の薬師丸ひろ子の主演映画のテーマ曲。二曲めの『勲章チミダ姫』は、キョンキョンこと"小泉今日子"の新曲で、演奏が始まると口ずさむ生徒もいたようだ。そして『北ウイング』は、女性歌手の中で実力ナンバー1とも言われる"中森明菜"の曲で、みんな夢中になっていた曲とか。さすがに、毎日の練習の成果が表れたすばらしい演奏であった。

次に、音楽研究部の、2HR大島恵さん・2HR米美佐さん・1HR浜谷恵及び臼井治さん・1HR浜谷恵三さんたちの演奏であった。"メー1演奏をバックに流しで歌ってくれた。聴けばなぜ感りにも気を配っていて、特に三年生たちに好評であった。

そして次に、予餞会のため選ばれた三組のバンドによる、バンド演奏であった。一組は、"THE SILVERNORSEDOLL BUTTON"の伊藤くん・小松健一くん・三浦泰典くん・赤川無くんによる演奏。二組めに、"SWAPPINGPAPPI"の青柳秀興くん・保藤雄一くん・白井光くん・高須啓尋くん・鈴木雅彦くんによる演奏。三組めは"重力加速度（G）"の黒山雄一くん・竹内千時くん・山内正文くん・後藤剛くんたちによる演奏。文化祭でもバンド演奏は二つの味わい勉たることもあって、演奏ますますかった。だが、バンド演奏を「うるさい」という意見もあるが、「うまい」という意見もあるとも言える生徒たちが増えているようであり、これは生徒会でも問題にしており、来年のバンド演奏定出るか検討中である。しかし同級のバンドは、昔から優秀と評判であり、今回も見事なサウンドで我々を驚ましてくれた。この日の為に一生懸命に練習を積んだ。各バンドの熱演ぶりに来席した三年生もしばし感激の事なと忘れて楽しんでいた。

さて次は司会人の呼び物である"のど自慢"。この時はかりは観客を交わっていた生徒も、ステージに注目し、大きな歓声をあげていた。出場者も観客も一体となって、盛況あふれる楽しいひと時であった。上位入賞者を掲げると優勝はすばい観賞で、「かわいい」と好評のあった。挑発の12HR阿部くん・大塚くん・和田くんだった。

最後の催し物は、先生方による教科別対抗歌合戦だった。結果はナイスミドル賞は英語科・青空賞は社会科・ミルキー賞は数学科・熱演賞は理科の先生方となった。教科別に歌合戦をするのは、今年初めての試みであり、これは、生徒たちにも特に好評を得ていたようであった。

以上プログラムを通ってきたが、やはり例年と大差もなく、新鮮さに欠けたが、来年への意気込みも期待したい。

▲南高のスター？有志バンド

論説

"規則"というものは

我々の学校にも"規則"というものがある。どこの学校にもあり、一見簡単そうで難しい問題である。一言でいえば「守るために作られたもの」である。その規則が我々の学校にある。浜松南高校の学生としてぜひとなければならないという事があるのだ。

ところがどうだろう。その規則というものを守っている人はかりではない。守っていない人もいる。なぜ守らないのか？規則には必ずその規則を作った理由がある。それなのになぜ守れないのか？

理由は簡単である。その規則に対して不満があるからだ。そうなぜに対して先生方はどう思われるだろう。「規則だから守れ」ではないだろうか。ここに大きな矛盾がある。その規則に疑問を抱いたり、不満があるから守りたくないという人に対して「規則だから守れ」では納得するはずがない。なぜ先生はその規則を作った理由をおっしゃらないのか。なぜ我々生徒が納得するように「なぜその規則があるのか」ということをおっしゃらないのか。そういうものがはっきり認識できたら我々生徒全員が必ず規則を守るはずである。いや、絶対に守らなければいけないのである。もしその規則を無視してもまた…。いろいろ考えたが私には理由らしい理由が思いつかなかった。マフラーというものが、なぜその規則があるのか、なんのためにあるのかと理解してほしい。マフラーというのは本来、首から肩にかけて風をさえぎるためにあるのである。もっとも最近はマフラーもファッション化して格好つけるためにしていると言われるかもしれないがそれなら、なぜ春や夏はやらないのかというとそれは、ファッションのためなら季節を問わずするはずである。我々生徒が絶しかつ強い意志をもって、マフラーをとられたというのである。ということはマフラーは必ずしてはいけないという規則があるのである。

理由がある場合であったが逆に我々生徒側にその規則はおかしいと思える規則がある場合がある。その例としてマフラーがある。この前、友だちに聞いた話しで事実話である。ある先生にマフラーをとられたというのである。ということはマフラーは必ずしてはいけないという規則があるのである。

そんな時我々生徒と先生が互いに納得いくまで話し合う必要があるのではないだろうか。我々生徒が絶しかつ強い意志をもって、マフラーをとられたというのである。ということはマフラーは必ずしてはいけないという規則があるのである。

このように我々生徒が絶しかつ強い意志をもって、マフラーをとられたというのである。ということはマフラーは必ずしてはいけないという規則があるのである。

そして、今の規則に対して、なぜ先生方は、ないのだ。我々がその規則を守る義務はないような気がする。我々生徒が真剣さと熱意を持って話し合ってくれるのではないだろうか。そうなら信じている。そのためにみんなが真剣さと熱意を持って話し合ってくれるのであり、それ自体が素晴らしいことだと思う。

このように我々生徒が絶しかつ強い意志をもって、マフラーをとられたというのである。ということはマフラーは必ずしてはいけないという規則があるのである。

そして、積ち重ねられた疑問が熱意や真剣さとなり生かされるようになると思う。

"規則は……"

みんなのために

あるのだから。

みんなのために

なければならない…。

そのために

みんながみんなを

真剣に、

「なぜあるのか、

我々のために

なっているのか」を

考えなければならない…。

そしてそれが

「なるほどその通りだ」

と、わかったら

やはり

守らなければならない

なぜなら

規則は守るために

あるのだから…。

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎53－1185
浜文ビル店　浜松駅使新（浜文ビル地下）　☎53－0191
高丘店　浜松市高丘一丁目三二番地　☎52－3110

みつめられている髮その瞬間も
髮は美しくあってほしい。
★平安閣
★プラザ浜松　★浜松会館オーク
★青年婦人会館さいわい婚礼指定店
ラフィラ美容室
浜松市モール街サゴー南　☎55－1341
営業時間　AM9:30～PM6:30（金曜日のみPM8:00まで）

学生衣料専門
浜松　おだたけ
浜松市板屋町広小路ビル　☎55－1254
営業時間／10時⇒7時・水曜定休日
豊橋花園間屋街店・豊橋広小路南通り店

友情、FOREVER。
卒業旅行
お申し込みは
浜松駅の中
ふれあい日本
赤い風船
運輸大臣登録一般旅行業第2号
日本旅行
浜松駅旅行センター
〒430　浜松市砂山町官有無番地（浜松駅内）
☎〈0534〉54－3501（代）
営業時間　10:00～18:00　日・祝日休業
土曜日も18時まで営業しております
11回卒　小幡利也

UNIFORM
仲間でユニフォームを作ろう!
Tシャツ・トレーナー・チャンパー・ブレザー・ワッペンetc…
気の合う仲間だけのイキなユニフォームをお作りします。
数量は何枚でもOK! デザインその他等でも、スタッフにご相談ください。
COX本店
●浜松市鍛冶町228COXPLAZA1F
●TEL（53）7225

かじ町コンタクト
コンタクトレンズを学生ご優待価格で!!
●コンタクトレンズのことなら何でもご相談に応じます
――各種メーカー取扱い――
〒430　浜松市田町330-21平和ビル6F
☎（0534）55－1383（代）
●受付時間 AM10:30～PM6:30　●休日 水曜（土・日曜・祝日平常通り）

遠州灘

寒い。本当に寒い冬である。なぜ私たちは今寒いと感じるのか。寒いからと感じるのか。それはきっと寒いからだと思う。寒いから寒いと感じるのだろう…。

「あたりまえだ」と笑っても思うかもしれないがこれは大事なことだと思う。自然の作用に素直に受けとめている姿ではないか。人が感動することを言っている。それを素直に受けとめ感動する。するとそれがプラスとなり一歩前進するところが、これを「なんだまたか」とひねくれたものの考え方で受けとめるとその人はなんの進歩もない人間となってしまう。進歩する人とは自然な姿の人のことかもしれない▽時の過ぎるのは早い一年生は二年生となり、二年生は三年生となり、三年生は卒業となる。「あっ」という間である。休みなく動くということがいかに大きなものになるかということを教えてくれる▽男のアイドル歌手を見ていつつも思うことがある。「この人たちは売れなくなったら将来どうするのか？」実力派の歌手なら問題はないが、歌で勝負できない人たちのことである。売れている今は確かにいいが、ファンがその人を評価しているものが歌でないかぎり人気がなくなっていくのは決まりきっている。人気がなくなったその時にその人に残っているものは何もない。ただ二つ残っているとすれば、それは仕事ができる体だけである。『楽あれば苦あり』のことわざどうりである。そうなった時、初めてその人たちは平凡でありながらもコツコツと歩いてきた人たちに対して"それこそ尊いものだった"と気づくだろうマ私たちは自由に生きている人を見てよう思うだろう。何の不安もなく、危険もなければ心配もない人である。ほとんどの人が『幸せな人だ』と思うだろう。ところがなうだろう。そういう人は苦心する必要もなければ努力する必要もない。そんな人が生きがいを感じるだろうか。確かに困難に直面することはない。しかし、困難に直面して成功したときに生ずる喜びを得ることもできない。私たちは生きがいのある人間で楽しい道路を自転車で通っていたら、向こうから自動車が走ってきたとしよう。まず最初に自転車に乗っている人が考えることは「こんな狭い道をどうして通るんだ」であろう。対する自動車に乗っている人も同じようなことを考えるにちがいない。どうしてこういうことになるのか。二人とも自分を中心に物事を考えたためであろう。だから自然と腹が立つ。どうしようもないことに二人で腹を立てることになる。ところが逆に相手を中心にすると感は一転する。「こんな狭い道を通って偉かった。」とまでは言わないにしても「まあ、かったな。」と感じる程度で、別に腹を立てようとは思わないものだ。

"胸にネクタイ"

冬の美大祭は、しんとしている"静"の世界だ。枯れ葉だけがカサコソと、風に鳴っている。でもよく耳をすますと、チチ、ツツと、小さなささやきが聞える。シジュウカラの声だ。寒んにさえぎられた時代、高校というひとつの過程を経て、私たちは卒業し、自分で選択した道を、それぞれ歩みはじめます。

今思いなおしてみると、いろいろな思い出が頭の中に蘇ります。学問の習得、学校行事、そして恩師、友人関係。学校行事、そして恩師の言葉をそれぞれ吸収しつくしてそして、社会という未知の世界に一人で飛び込んで行かねばなりません。そこには、どんな困難が待ちかまえているかわからないけれども、高校生活で学んだことをひとつひとつ役立て、克服していきたいと思います。

一、二年生のみなさんは、これからが"思い出作り"の本番でもあり、一番輝ける時でもあります。遊びや運動だけでなく、勉強にも力を入れて、悔いが残らないようにがんばって下さい。そして、何事にも挑戦し、積極的に活動して下さい。今後の一年間を但っていくのは、あなたたちのですから――。

"時のたつのが早く感じられるのは、生活が一日一日充実しているからである"といいます。南高での三年間が充実したものであったのは、諸先生、在校生のみなさんのおかげです。ありがとうございました。

金糸が白と黒のツートンカラーで、おしゃれな鳥だ。背中のグレーがとても美しい。胸から腹にかけて黒い背は、ネクタイとも呼ばれ、シジュウカラのフィールド・マークになっている。これが、太くて立派なのが雄で、雌の場は細くてひかえめなもので可愛らしい。

まだまだ風が肌を刺すような寒いうちから、よく晴れ上がった日なら、木のてっぺんや電線に止まって、ツピーツピーツピーと、さえずりの練習をはじめる。春を迎え、恋の歌をうたっているのだ。普段は、遠くまでよくおる声も、まだ寒先のうちは遠慮がちにはじまる。

さて、この春鳥だが、人間にたとえると、いったい何になるだろう。さしずめ"新入社員"といったところが適当であろう。胸のネクタイにしめ、遠慮がちなさえずりにしろ、新入社員を形容するには、ぴったりである。そして、このシジュウカラは、寒さが少しずつやわらぐにつれて、さえずりはダンダン調子を上げてくる。まさしく実力を発揮するのである。

この春、社会に出る卒業生のみなさん、シジュウカラのように、成長することを大いに期待しますよ。

各部の力作勢揃い!!

初の冬季文化展

"生徒会主催"

二月六日から十五日までの十日間、生徒会の主催による文化部だけの文化展パートIが行なわれました。

これは、運動部のように、試合などを通して成果をだすことの少ない文化部が、日頃のような活動をしているか、またそれを展示することによって、どのような反応が得られるのかをためす、いわば、どちらかというと、不活発になりがちな文化部の見直しをはかったものです。

今回の企画は展示生徒会の中では初の試みで、新生徒会発足以来伊藤会長をはじめとする生徒会役員の人たちの生徒会活動にかける新たな意気込みが感じられます。

展示は、昇降口や、渡り廊下などで行なわれた。各部活とも、日頃の成果を、十分に発揮していたようで、文化展は成功したと言えるだろう。

そこで、各部活の部長に、文化展をやるに当たっての抱負を語ってもらいました。

▼漫画研究部

今回の文化展では、イラスト展とビデオ上映会を行いました。何気なくイラストの展示を見ている人が多いと思いますが、あれらの一枚一枚は漫研部員の魂がこめられているのです。一枚描くにつき言葉は、そんなに簡単に生まれてくる言葉ではありません。やはりそれなりの活動（練習）といったものが必要でしょう。毎日の練習努力ということの積み重ねにより実績という一つの言葉が生まれ、それが認められていくのではないでしょうか。それなのに、活動日は、週二回。ひどいところだと個人で適当という部活もあるのです。これでは実績も何もありません。上達を望めるはずがありません。それに、文化部には強制で、一向に部活に参加しようとしない人が多いのです。これは大きな問題ですよね。このような人達に、一体顧問の先生方はどのように対応しているのでしょうか。運動部にはどういう点のけじめというものが見ることができますが、文化部にはあまり見られません。それに顧問の先生は部活に来られますか。の質問に、ほとんどの部活が「来ません。」との答えが返ってきました。文化部の活動は、毎日あるわけではありません。その数少ない活動日すら顧を出さない顧問の先生方にも、もうひと前向きな姿勢で取り組んでいってもらいたいのです。そうすれば、幽霊部員は少なくなっていくのではないでしょうか。

次に、運動部と文化部を比較して見ていきたいと思います。

運動部では、女子バスケット、男子テニス・バレーなどの部員が好成績を納め、テレビ・新聞などで浜松南の名をあげています。やはり、毎日の厳しい練習がこのように結果として現れてくるのでしょう。そして、運動部には「勝利」という大きな目標を持つことができますが、文化部は運動部とは違って比較的地味な部活です。目標もそんなに大きくはありません。

▲美しい音を……管弦楽部

▲きれいだなぁ～

▼写真部

今回は初めてカラーもってみたわけですけど、撮影する部員が少なかったため、作品を出すのが遅れてしまいました。

展示会に出品した作品を全部見て思ったことは、私たちの展示会に対する意識が増したということです。それと、前回展示が行なわれた時より、私たちの作品が、それを見てくれた人たちに、自然に受け入れてもらえたのがうれしかったことです。

この文化展を契機に、写真部の方でも、今回から始めたカラー写真を、もっともっと進めていってよりよいものにしたいと思っております。

▼華道同好会

華道同好会は、最近会員が増えて少しずつ活気になってきました。先生は大変厳しくおっしゃるけど、とても親切でやさしく教えてくださいます。

今回の文化展では、渡り廊下や昇降口の真正面の所に、会員の人達が、心をこめて生けた花を展示しました。いかがでしたか？

▼茶道同好会

私達茶道同好会は、毎週月曜日茶道室で、活動をしています。現在会員は、一年生三人、一年生三人とどれも少ないのですが、いつも和気あいあいとした感じです。本音いうと、何となく寂しい感じがありますが、会員そんなことはなく、本当に楽しく活動しています。

▼医師研究同好会

今回は、残念ながら参加しませんでした。

ただ今、来年の文化展に向けてモーレツに準備しています。現在は、二、三名の部員を募集したオムニバス医師を制作中。また、長編医師も出演しています。

昨年は大変をご迷惑をかけたので、それ以上のものを、会員一同張り切っています。

▼茶の根

募金箱を設置したのですが、準備不足だったためか、全然募金をしてもらえませんでした。もっと説明をしっかりするか、募金箱を持って昇降口に立つべきだったかなと思いました。

みんなに"茶の根"の活動をもっと知ってほしいのですが、今回は少し失敗だったようでした。

この文化展パートIが終わったあと、来年の文化展について、生徒会役員に提案を出してもらった……我々生徒会活動では、来年度の行事について話し合いがなされていますが、とくに文化展についてです。

文化展――これは二年の年間行事の中で最大であるといえます。しかし我が校の文化展は他校の比べて、いまひとつ盛り上がりに欠けているので、我々は色々な点において改めようと努力しています。

例をあげてみると、中夜祭の施行、文化展を文化祭に、IIB展の改正、予算増などがあります。これらは生徒一人一人が協力さえすれば、実現できるのです。しかし協力がなければ絵に描いた餅になってしまうのです。

みなさん、一年の中で最大行事である文化展を盛り上げるために、お互いに協力をしましょう！

活躍を期待

ガンバレ文化部 同好会

みなさんは、文化部を一体どのように捕えていますか。

現在、我が南高には九の部活動同好会があります。そこで、今学校側では、文化部・同好会について取り上げられているようですが、今回、新聞部でも「文化部の問題」として取り上げ、考えてみることにしました。

さて、現在の南高には、13の文化部と、三つの同好会とがあります。が、果たしてみなさんは一体どれだけの部名をあげることができるのでしょうか。恐らく、全部の部名をあげることは無理なことだと思われます。

ほりだけで考えてみると、部名が知られていないということは、私達の文化部に対する興味・関心が、それだけ少ないと言いかえることができるでしょう。すなわち文化部には、私達が関心を持たせるだけの活動・実績がないのではないでしょうか。「実績」というから「来ません。」との答えが返ってきました。文化部の活動は、毎日あるわけではありません。その数少ない活動日すら顧を出さない顧問の先生方にも、もうひと前向きな姿勢で取り組んでいってもらいたいのです。そうすれば、幽霊部員は少なくなっていくのではないでしょうか。

次に、運動部と文化部を比較して見ていきたいと思います。

運動部では、女子バスケット、男子テニス・バレーなどの部員が好成績を納め、テレビ・新聞などで浜松南の名をあげています。やはり、毎日の厳しい練習がこのように結果として現れてくるのでしょう。そして、運動部には「勝利」という大きな目標を持つことができますが、文化部は運動部とは違って比較的地味な部活です。目標もそんなに大きくはありません。

こういった現状があるかもしれませんが、しかし、運動部は頑張れば頑張った分、タイムが上がったり結果すれば報われる分、高度の技術が見につきます。文化部には、そのようなことが運動部より少ないように思われるのです。今日一日、一生懸命活動したとしても、それがすぐに身についていく効果に現れていくということになるわけではありません。しかし、角度を変えて考えてみると次のようなことが言えるのではないでしょうか。

好きな時に、好きなだけ好きなことができる。自動的にやらされるのではなく、自分から進んでいろいろなことを研究し、また自ら学ぶことができる。こうして積極性というものが生まれてきます。地道な活動を続けていけば、本当に自分がやっていきたい事、見つめていきたい事が、だんだんとわかってくるような気がするのです。文化部には、このような利点があるにも拘らず、もっと多くの人達が興味してもらえたらと思います。自分の趣味を伸ばすには最適なのではないでしょうか。

特に、各タイプ部は個性豊かな生徒にとって楽しみつかることが多いし、雰囲・非来・前来などの同好会は、女生徒が興味法を身につける唯一の場ということができるでしょう。どうですか。もう少し文化部に興味を持ってみては？

愛が生命を救う

献血についてみなさんはどれくらいのことを知っていますか。先日、二回にわたり本校でも献血に参加しました。その様子をお知らせします。

献血受付は339人で、不適格は32人でした。実際の献血者名は第一人で、献血をすることができなかった人の内訳は、比重不足10人、血管細が8人、低血圧が8人、治療中が3人、その他が1人でした。献血を受けることが出来る人は、年令満16才以上65才未満の人で、一年生の中には、まだ献血ができない人もいるでしょう。体重は男子45キ、女子40キを上回っているものとされています。献血は体代償を期待することなく強制も受けず、苦しんでいる人々の為に自己の血液を自発的に提供する行為をいいます。日本で献血が行われるようになったのは一九五一年四月のことであるといいます。

献血をするということは、自己の健康について再確認するのにも大変役立つものです。コレステロールなど、今まであまり詳しくわからなかった自分の身体についても、医学的にデータを与えてくれます。初めての人にとっては、多少不安な感じかと思いますが、思い切ってぜひ参加してみたい人は、一度参加してみると良いと思います。

今、病院では、大変な血液不足のようで、昨年の春だけでも、血液を求める声がヤヤウシオ、また、その他大勢のマスコミによって叫ばれていました。血液を提供することが、どれだけの人の命を助けるかわかりません。今健康である人達は、健康がもたらす恩恵を常に心に留め、それからそこできる社会への奉仕に積極的に参加してほしいと思います。

本年度 献血者数

献血者数	86.6%（207人）	できなかった人 13.4%（32人）
比重不足 31.3%	血管細 31.3%	低血圧 25%
治療中 9.4%	その他 3.0%	

先生だより

田中哲彦先生の巻

今回は、国語担当の「田中」先生をクローズアップしてみました。

▼先生の家族構成は？

「妻が一人です。」

▼先生の趣味は何ですか？

「音楽を聞くことです。バッハとか、モーツアルトをよく聞きます。」

▼先生が最近読んだ本は何ですか？

「中国関係の本です。」

▼先生から私達高校生にすすめる本は何かありますか？

「『いていきなさい、若者よ』、『風と共に去りぬ』や、『ジャン・クリストフ』をすすめます。両方とも、高校生活の年令のことが小説の中に入っているし、人間はいつか一人で生きていかなければならない時がくるので、その時の参考にもなると思います。若い時に、人の一生を描いた本がいいですね。」

▼先生は、音楽の演奏会に行ったことがありますか？

「はい。あります。」

▼音楽の演奏会の良い点・悪い点をあげてください。

「良い点は、エアコンがついていることですね。夏、涼しくて冬、暖かいですから。悪い点というか、古い本のようなものですね。同じ本ばかりから、新しい本に変わってほしいなと思います。」

▼先生は、音楽の出場をしようとしたことがありませんか？

「一番かわったことは、音楽科に男子がいなくなったことですね。昔は音楽科の男子クラスは共学でしたから、わりと活発ありました。三年生になると、もう生徒たちの生活態度がとてもよくなりました。三年生のクラスは、学校の雰囲気を盛り上げてくれましたし、今はもれなくいますね。」

▼先生が生徒を見て一番感じることは？

「生徒たちの目を見ればそうでしたね。」

▼先生の生徒たちへのメッセージは？

「まず第一に、元気ですごしたことが一つの収穫でしょう。二番目は、学問するときの厳しさ、楽しさを体験できたことです。三番目は、歌声の美しさといわれ、学年運動会の時で、色々な面白い雰囲気の中で、それにあえて挑戦した生徒たちにとってよかったことです。

会長問題の"それぞれ"のような学生生活でした。」

▼先生の教育方針は、どういうものですか？

「実験問題を通して、『厳しい内容のことをわかりやすくしたい』ということです。これが、目標である。心がけです。」

▼先生が今、興味を持っていることは何ですか？

「ヨーロッパ、例えばフランスのかた田舎の町にすむことを旅行をすることです。」

▼最後に、先生が私達に言いたいことは何ですか？

「『していていえば学校みたいな所でしか得られないものをたくさん吸収してほしいということです。ここで自分は人と異なるんだという個性を考えるきっかけを三年間の間に作ってほしい。』

田中先生はとても協力的な先生で、私達にアドバイスをしながら、インタビューに答えてくださいました。とてもしっかりした考えをもっていらっしゃる優しい先生でした。

一回戦突破ねらう

さて、二月一日に発表された生徒会よりにも最も早かった大会組み合わせのプログラム発見でもわかるように、第一回戦の相手は、浜松県代表の浜松商高である。同校も全国大会出場チームである。互いに実力は高い。きっと熱戦できるであろう。

何といっても、我が校チームのモットーは"一回戦突破"。初戦で練習の成果を発揮して、一勝をもぎとる。

今、男子テニス部を中心に、南高校は勢いがついてきている。彼らの活躍に期待したいものである。

取本材日記

○2/4 …今日で三年生がいなくなる。私の大好きだった先輩、今までありがとうございました。

○卒業の新聞。ロッシュ・クルーシュが早く一位になりますように。……ナムナム。

○今日は学校がとってもいいので、とても気持がいい。南側の廊下は国のプア……。

○今日は担任さんに今月のおこづかい千円をもらった。今はルンルンしてます。

○この学校には外国人の先生がいるんだヨォ……。なんてそこ。これからも頑張ってください。

○私、今セーターをあんでいるんだあ。本当はクリスマスまでに作るはずだったけど、まにあいそうもなかったんで、クリスマスはクッションにしちゃった。ペンギンさんのやつってかわいくってきたよ。今度はセーターがんばって作っちゃおう。

○今日、卒業式。行こうと思って外へ出たらびっくりした。あの時、かわいがっていた猫が入ってくるの。うれしいなあ。

○私は、はっきり言って頭が悪い。早く来年の今が来ないかなあって思うけど、その間に就職するとあるのかなア……って思うと"そォ～"とする。ネー。

○今日から推薦学校が始まった。私は推薦学校に行こうと思っているんだけど、まにあいそうもないんだ。

○今日、校舎の外では、窓のサッシを磨いているのです。二年前私たちが、この学校へ受験に来た時もやっていたような気がするなア……。

○今度の体育から先生が変わって、担任先生から体操先生に変わります。うーん。ガクリと来ちゃう。がんばんなくっちゃ。

"先生"あんまりきつくしたらだめで下さいネッ。

○私は、はっきり言って頭が悪い。早く来年の今が来ないかなあって思うけど、その間に就職するとあるのかなア……って思うと"そォ～"とする。ネー。

○今日から推薦学校が始まった。私は推薦学校に行こうと思っているんだけど、まにあいそうもないんだ。

○今日、卒業式。行こうと思って外へ出たらびっくりした。あの時、かわいがっていた猫が入ってくるの。うれしいなあ。

あっ当番日誌が真っ黒だ！

「明日はどんないことがあるだろう。こう思い巡らして今日を送りたいとよく考える。いやなことがあるとわかっていても、何か刺激されるような事件があると嬉しいと感じるのが好きだ……」

これは、13HRの九月十三日の当番日誌に担任の小林宗陽先生がお書きになったお言葉の一節です。みなさんのHRの当番日誌をパラパラとめくってみて下さい。どんな印象を受けますか。真っ白な空欄ばかりが目立っているなんてことはありませんか。

13HRの当番日誌は、どのページも先生がびっしりとお書きになっていて空欄がないのです。四月の最初から今まで一日も欠かすことなく。そして、その日誌を記載するのは、先生だけでなく、生徒の大切な役目であるのだから、ガッツで押してほしいものだ。

出場選手たちの張り切りようは大したものである。

そして、自信に満ちあふれているとこで、その選手を紹介すると十五番、石原賢一郎、川村雅彦、南川雅彦、大野健、高橋剛、そしてキャプテンの金子昌弘君の計六名。

顧問の鈴井先生は、初戦を勝ち抜くことはもちろんのこと、第二シードの浜松西校（福岡県代表）との戦いを目標としている。

もちろん、日頃鍛えている選手を信じているみたいにおきてくる自信であろう。

あとは、当日の選手たちの活躍を待つばかりである。

編集後記

卒業式も間近となりました。我等が南高校でも第十九回卒業生を送り出します。

感動と進学、方向は違っても、どちらも新たなる出発です。

卒業生の活躍に期待したいものですネ。

ところで、卒業という季節はたくさんの物語を生み感動でもありますー。

その別れが我に何を及ぼすか、その大きな節目において、何を考えるべきであるのか。――是非知っておきたいことですネ。

また、卒業には卒業のイメージにぴったりのサウンドもあります。過去に流行った曲にも本当に良いものがあります。

少しあげてみると。"春よ来い"、"贈る言葉"はベストヒット曲。

また、松田聖子の"卒業"、"制服"、沢田研二の"卒業"、倉田まり子の"グラジュエーション"……とまだまだたくさんの曲がうかんでくるでしょう。

これからの曲にも期待したいですネ！

さて、この秋は、春休みに入ります計画はたっているでしょうか。気温としてはちょっぴり寒いけれど、一番良い時ではないでしょうか。

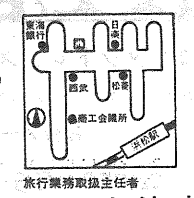
心をおちつけて一年間考えみたりまた、新しいものに向けて下準備をしたりして充実させたいものです。

ほんのりと暖らしい思い出となるすばらしい体験ができたらハッピーですネ。そしてその体験をノートに記して"春色のダイアリー"なんていかがでしょう……。

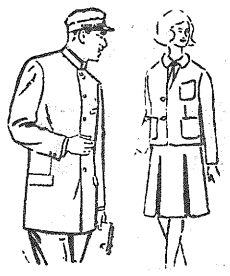
すべての旅のお手伝い
あなたの街の交通公社

旅もキャッシュレスの時代です。
あなたも信頼のYES JTBカードの会員に、
YES、JTBカードは特典がいっぱい
新会員募集中！

日本交通公社 浜松支店
〒430 浜松市鍛冶町 西武デパート前
営業時間 10:00～18:00（土曜 13:00まで）
定休日 日曜日・祝祭日・⅓～⅓
☎(0534)53－2115
54－6981
お気軽にお電話下さい。



旅行業務取扱主任者 小池孝夫



御通学には指定制服で
女子冬指定服
〃 夏スカート
〃 コート
男子制服詰エリ
生地純毛日毛カシドス地
〃 ギャバ地
御調製
大森洋服店
浜松市佐藤町 TEL ⑥3288

生徒募集 お帰りが便利・モダンな教室
いけばな・フラワーデザイン教室
池坊・草月流・小原流
松風流・宝心流・吉流
（入会随時・案内申込書有）
花徳
教室・東田町店2階
遠鉄浜松駅南
電話52―9086

学校法人 河合塾
入塾受付中
―豊橋校―
《設置クラス》
◆特別選抜〔K〕クラス……高1・2・3生（選抜入室）
～超トップレベル大学現役合格をめざす～
◆選抜〔R〕クラス……高1・2・3生（選抜入室）
～トップレベル大学現役合格をめざす～
◆強化〔L〕クラス……高1・2・3生（随時入室）
～不得意教科征服をめざす～
選抜試験 3月20日(火)・3月29日(木)
入塾説明会 3月6日(火)・3月11日(日)
※入塾パンフレットをご希望の方は下記までご請求下さい。
●お申込み ●お問合せ 河合塾 浜松事務所
浜松市田町324の3
住友生命浜松田町ビル3階
☎(0534)53－5581